

せったいおおしま
摂待大島

- ◇ 指定日 平成6年10月1日
- ◇ 所在地 摂待
- ◇ 所有者 国

摂待大島は、田老地域の摂待漁港から北へ約1.5kmの海上にある東西約100m、南北200mの小さい島で、約1億年以上前ちゅうせいだいはくあきぜんきの中生代白亜紀前期の地層が露出しています。

この地層は「宮古層群」みやこそうぐんと呼ばれ、白亜紀前期における標準地層として世界的にもその名が知られています。

宮古層群は羅賀層らがそう、田野畑層たのはたそう、平井賀層ひらいがそう、明戸層あけとそう、日出島層に細別されていますが、摂待大島では田野畑層と平井賀層の境を見ることができます。

地層中からはサンゴや巻貝、アンモナイト、ウミユリなど多くの化石が産出しています。

ちなみに、近接する岩泉町茂師にある宮古層群田野畑層からは国内初の恐竜化石、モシリユウが発見されています。



摂待大島遠景



化石産出状況